

藤原 啓治さん（昭和58年卒）

声優（クレヨンしんちゃん 野原ひろし役 他）・俳優
音響監督、（株）AIR AGENCY 元代表取締役 他

◇はじめに（藤原啓治さんを紹介させて頂くに至った経緯）

「輝く70名」企画で藤原さんを紹介すべき、との声はもともと校内にありました。しかし、故人であるご本人が掲載を望まれるのか、ご遺族のお気持ちはどうなのか、といった意見もあり、掲載しない方向で考えていました。

ところが、他の卒業生への取材活動を重ねる中、藤原さんの掲載を望む多くの声とともに、藤原さんが専北時代を自分らしく生き生きと過ごされていた様子を聞き、掲載することは藤原さんのお気持ちに沿うことになるのではないかと、との考えに至りました。

そこでご自身が代表取締役を務められていた（株）AIR AGENCY様に連絡を入れたところ、ご遺族へのご連絡等、様々な対応について二つ返事でご了解を頂きました。

そして、何より、専北時代を共に過ごされ、その後も深い親交のあった著名ミュージシャンである古市コータロー様が多忙の中、友人として専北時代の思い出等に関する情報をお寄せ下さいました。

一高校のホームページでの情報掲示という、地味な企画ではありますが、北上という地域の枠を超え、多くの方々の藤原さんへの愛ある思いにより、このご紹介が実現したという経緯をここに報告させていただきます。



◇藤原さんは、主にどのようなお仕事に取り組みされたのか

声優としては、アニメ「クレヨンしんちゃん」のお父さん（野原ひろし）役があまりにも有名ですが、その他、「ケロロ軍曹」（ナレーター/ポール森山）、「鋼の錬金術師」（マース・ヒューズ）、「機動戦士ガンダム00」（アリー・アル・サーシェス）、「交響詩篇エウレカセブン」（ホランド・ノヴァク）、「HUNTER×HUNTER」（レオリオ）、「忍たま乱太郎」（野村雄三/吉野作造）があります。

また、吹き替えでも「アイアンマン」「アベンジャーズ」「シャーロックホームズ」「ドクタードリトル」（ロバート・ダウニー・Jr.）、「チャーリーとチョコレート工場」（ジョニー・デップ）等、多くのメジャー作品で幅広い役柄を演じられています。

さらに、2006年11月には声優プロダクションである株式会社AIR AGENCYを設立し、後進の育成にもあたりました。

その他、声優のプラネタリウム朗読会「ほし×こえ」をプロデュースし、全国のプラネタリウムで公演を行い好評を博しています。

（※次ページは、「専北時代の様子等」についてです。）

◇藤原さんの専北時代の様子等

※以下は、北上で青春時代を過ごされた藤原さんに中学時代に出会い、専北と一緒に進学され、以後、深い親交を続けたミュージシャンの古市コータロー様に頂いたコメントです。

☆「高校時代に藤原様と出会った時の第一印象はどんなものでしたか？」

自分の内面の深いところで理解し合えたような気がします。まだ15歳という大人ではない未完成な部分も含めてですが。彼との出会いはそういう意味では衝撃的でしたね。

☆「専北時代の藤原様の魅力はどんなものでしたか？」

専北時代の彼は何か吸収しているとでもいうのかアウトプットしてエンジョイしている感じではなかったですね。でももともとみんなではじけようというタイプではなかったのだから自然体だったのかもしれませんが。そういう意味では寡黙というか渋い存在だったと思います。

☆「藤原様との高校時代の印象に残る出来事・エピソードを教えてください」

やはり学園祭が思い出されますね。バンドと一緒にステージに立ったのはいい思い出です。今、私はプロのミュージシャンとして活動していますがやはりあの学園祭のようなステージが本当の意味で原点だなと思います。それと彼は出店でうどんを担当していてスープを先輩の手にかけるなどちょくちょくミスをしていましたね。自分でも笑っていました。

☆「藤原様が専北生にメッセージを送るとしたら、どんなメッセージを送ると思いますか？」

これは確実に言えるのですが彼はそういうメッセージをさけるタイプです。もしこのようにメッセージを求められたらおそらく「まあ、頑張りたまえよ」とさりげなく言うでしょうね。「たまえよ」というのは彼と私の当時からの流行り言葉です。今でも使いますね。

☆取材担当から

古市コータロー様、レコーディング等でお忙しい中にもかかわらず、貴重なお話を披露頂き有難うございました。

また、株式会社AIR AGENCY様、様々なことにお骨折り頂き、有難うございました。皆様のお力添えにより、ここに、藤原さんを、同じ専大北上高校の卒業生として誇りを感じつつ、紹介させて頂くことが出来ました。感謝申し上げます。(担当：Y)